

学校だより

【5月号】

「ひび割れつぼ」 ～校長講話(5/12)より 抜粋～

「㊦さしい心」「㊧がし求める心」「㊨わいがる心」「自分で自分をかわいがる」ってどういうことなのでしょう？今日のお話が、ちょっとしたヒントになればいいと思います。



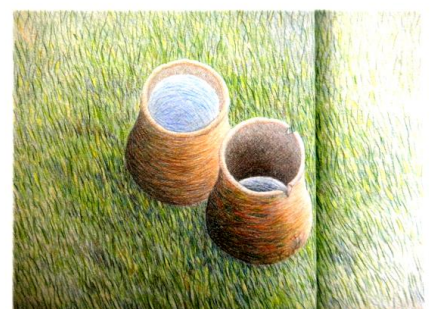
さてみなさん、これ(左絵)は何に見えますか？白に注目すると人に見えて、黒に注目すると「つぼ(入れ物)」に見えます。これは、「ルビンのつぼ」と言われているもので、同じものを見ていても、見方を変えとちがって見えたり、見方を変えと違うものに見えたりするのです。今日は、「ひび割れつぼ」という本を紹介しますね。

これは、インドの田舎のお話です。そこでは、水くみの少年たちが、毎日小川まで水をくみに行って、ご主人の屋敷まで運んでいました。



その水くみの少年は、二つの壺を持っていました。少年は、棒の端にそれぞれの壺をさげて、首の後ろに棒をかけて水を運びます。

一つはひびのない壺で、小川からご主人の屋敷まで一滴の水もこぼさずに運べます。しかし、もう一つは、内側にひびが入った壺でした。ひび割れた壺は、少年が水をいっぱい入れても、ご主人の屋敷に着くまでには水がもれて半分になってしまいます。



2年の月日の間、毎日少年はこの二つの壺をさげて、屋敷と小川を往復しました。

ひびのない壺は、水をもらさない自分をいつもえらいと思っていました。

かわいそうなひび割れ壺は、自分のひびをととても恥ずかしいと思っていました。なぜなら、自分の水がもれて、半分しか運べないことが悲しかったのです。



ひび割れつぼにとって悲しい2年が過ぎ、すっかりみじめになったひび割れ壺は、ある日、小川のほとりで少年に話しかけました。「私はこんな自分がとても恥ずかしい。」

「なぜ？ 何がそんなに恥ずかしいの？」少年は聞きました。

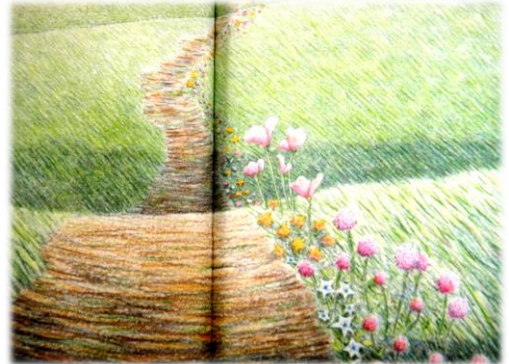
ひび割れ壺はこたえました。「この2年間、私はこのひび割れのせいで、あなたのご主人様の屋敷まで水を半分しか運ぶことができませんでした。」

「わたしのひびのせいで水がこぼれてしまうから、あなたのお役に立てないのです。私はそれがつらいのです。本当にごめんなさい。」

少年は、この古いひび割れ壺を気の毒に思い、優しく言いました。

「ここからご主人様の屋敷へ帰る途中、道端にきれいな花が咲いていることに気が付いてほしいな。」

棒にぶら下げられて丘を登っていく時、ひび割れ壺は、太陽の光にあたたく照らされた美しく咲き誇る道端の花に気がつきました。花は本当に美しく、ひびわれ壺は少し元気になりました。



けれども、ご主人の屋敷に着く頃には、また水を半分もらってしまった自分を恥ずかしいと思い、また少年に謝りました。

すると、少年は言いました。「道端の花に気づいたかい？それに道端の花が、ひびのない壺の方でなく、君の側だけに咲いていることに、気づいたかい？」



「僕は、いつも君からこぼれ落ちる水に気がついてたよ。だから、君が通る側だけに花の種をまいておいたのさ。そして君は毎日、僕達が小川から帰る途中、その花たちに水をまいてくれたんだよ。」

「君がひびのある壺だったから、この2年間毎日、僕はご主人様のテーブルをきれいな花で飾ることができたんだ。君がいなかったら、この美しい花を飾る事はできなかったんだよ。本当にありがとう。」



人は、だれでも「ひび」を持っています。私にも苦手なことがあったり、うまくいかないことがあったりします。でも、ちょっと見方を変えると、そういった「ひび」がちがって見えることがあるのです。

みなさんは、今日の話で何を感じましたか。ひびが入ったつぼはダメなつぼなのだろうか？さらに、「自分で自分をかわいがる」ってどう いうことなのだろうか？

教室にもどったら、先生や友だちと考え合ってみてください。

◆各ご家庭でも、ぜひお子さんと話題にしてみてください。また、保護者の皆様方もご自身のお子さんに対する見方や接し方を見返すきっかけにいただけると幸いです。